

4. 地球儀上の緯線と経線の各交点をこのような方法でガラス面上に投影し、それらの点を結べば緯線経線の投影図を得ることができる。

5. この図にレンズの歪の補正をし、写真と同じ大きさになるように縮小して写真の上に置けば、写真にうつっている雲のある場所の緯度経度を読み取ることができる。

ただし、実際に使った装置は完成品でなく、精度がよくないために、最後の操作は簡略化し、テーブル上に描かれた緯線経線の図をアメリカから送られてきている雲解析図に合うように補正して写真上にスケッチした。

TIROS II (TIROS II については軌道番号125 (1960年12月), 140 (1960年12月), 786 (1961年1月16日)の写真が送られてきている。これらの写真是カメラの故障のためピントが合っていない。) 以下についてはこのような操作に必要な資料がついているが、TIROS I (軌道番号1~109の写真, 200フィートリール7巻が送られてきている) については撮影中心地点の緯度が与えられていない(雲解析図もない) このような場合の方法については K. Watanabe (1961), T. Fujita (1961) が報告を出している。後者はメルカトル投影による地図上で種々の操作をしている。ただし普通のメルカトル投影では赤道に接する円筒を考えるが、彼は赤道と48度の角で交る大円に接する円筒に投影しものを使用してい

る。

1962~1963年の冬に打ち上げが予定されている気象衛星 NIMBUS はカメラが常に地球の中心え向くように設計されているので、TIROS の場合よりも操作が楽になる。

#### 参考文献

- 1) 川畑幸夫, 1961: 雲解析について, 測候時報, 7, 251~260, 8, 297~300.
- 2) 藤井幸雄, 1961: タイロスが捕えた熱低, 天気 9, 304~306.
- 3) Fujita, T., 1961: Outline of a Technique for Precise Rectification of Satellite Cloud Photographs. Technical Report to the U.S. Weather Bureau (Contract No. 10047).
- 4) Hubert, L.F., 1961: Camera Attitude Data, Analysis of Location Errors, and Derivation of Correction for Calibration. Meteorological Satellite Laboratory Report to the National Aeronautic and Space Administration. MSL Report No. 5.
- 5) Hubert, L.F. 1961: Canadian Grids for TIROS I: Additional Orientation Data; Errata. *Ibid.*
- 6) Watanabe, K., 1961: On the Theory and Technique of an Easy Method of Wide Range Photogrammetry for the Observations of Sea Ice Distribution. Oceanographic Magazine. Vol. 12, No. 2.

#### 【新書紹介】日本の風 田口龍雄著

A 5版 86頁 財団法人気象協会発行 定価 250円

ふだんの生活にでてくるヤマセの風, ダシ, オロシなどの風の名前をきくたびに, われわれは, どんな風だろうか, どの地方でいつごろからいわれてきたものだろうか, と知りたくなることが多い。こんなとき本書をくりひろげると, 大和時代, 平安時代, 鎌倉室町時代, 江戸時代に, われわれの祖先がどんな経験をし, どんな考え方をしたか, そしてどの風の名前はどの記録からあらわれているかが, 実に豊富な資料と図や絵で説明してあり, 気象のみならず, 文化史, 歴史などに興味を持つ人々にも, またとない書物となっている。著者の「はしがき」にもあるように「小稿は風に対する日本人の関心や知識が時代と共にどのように変化して今日に至ったかを, 主として古典や記録類から資料を選び, 気象科学の立場から回顧しようと試みたものである。」著者の豊富な知識をもとにして, はじめて出来たという感が深い。なお, 風にまつわる物語が, 短いながら 33篇のせてあり, 読物としても面白い。

(毛利圭太郎)

#### 異国漂流記集 荒川秀俊編 気象研究所発行

気象資料シリーズの第2巻として出版されたもの。15の漂流記が載っており, うち一つは日本海で遭難し, 満洲に漂着したが, 他はすべて太平洋における遭難である。舟山(Chusan, 上海のそば), 台湾, 馬丹島, 廣東付近, ルソン, ボルネオなど西に流された話が多い。鳥島は測候所があるので気象人にはなじみが深い, 以前は無人島で, ここに漂着したのが3例のせてある。漂流中アメリカ船に救助されてアメリカに渡ったジョン・万次郎とジョセフ, ヘコの記録もある。北東に流されてロシアに着いたのは一例で, 東に流されたのが少ないのは, 東に流された場合は救われる機会がきわめて小さいためであろう。各漂流記は原文のまま載せてあり, これに簡単な説明がついている。むかしの人々の見聞記は歴史の本とは異なり, 海外の生活を直接見る思いがして, まことに興味があり, また彼等の精神力には頭の下がるものである。

(有住直介)

『天気』9. 9.